



2023年3月16日

株式会社 阿波銀行

株式会社鳴門のいも屋の「SDGs 宣言書」策定について
～ お客さまのSDGs 達成への取組みを幅広くサポートします ～

阿波銀行（頭取 長岡奨、本店：徳島県徳島市）は、SDGs の達成に向けて取組む企業を積極的に支援するため、「あわぎん SDGs 対応度診断サービス」を取扱っています。今回、株式会社鳴門のいも屋（代表取締役 仲野 智也、本社：徳島県鳴門市）が、当サービスを通じ、「SDGs 宣言書」を策定されましたので、お知らせいたします。

SDGs や ESG への関心が高まるなか、経営課題の発見や新規事業の創出、企業イメージの向上に繋がることから、多くの企業が SDGs 経営に取組み始めています。

当行は、SDGs の達成に向け、企業の方々と一緒に取組む伴走支援を行っています。今後さらに、お客さまの SDGs 達成に向けた支援を通じて地域経済の発展や産業振興に貢献し、魅力ある持続可能な地域社会の実現に向けて取組んでまいります。

【企業概要】

| | |
|-----|--------------------------|
| 企業名 | 株式会社鳴門のいも屋 |
| 所在地 | 徳島県鳴門市瀬戸町明神字板屋島 123 番地 5 |
| 代表者 | 仲野 智也 |
| 業種 | 食品製造業 |
| 設立 | 1994 年 12 月 1 日 |

○あわぎん SDGs 対応度診断サービス

当サービスは、SDGs の達成に向け取組む企業をサポートするため、①SDGs 対応度診断チェックシート（※）によるお客さまの取組状況の評価（評価レポート作成）、②現状認識（評価レポート）を踏まえ、お客さまとの対話による具体的な取組み内容（SDGs アプローチシート）の策定、③環境・社会・経済の3側面でのアプローチシートを基にした「SDGs 宣言書」の策定、をご提供するものです。

また、「SDGs 宣言書」策定後も、取組み内容の継続的なサポートや再評価等により、SDGs の達成に向けた実効性の高い取組み支援を行ってまいります。

※本サービスで使用するチェックシートは地域の課題等を盛り込み、SOMPO リスクマネジメント株式会社と当行が共同開発したものです。

SDGs宣言書

2023年3月16日



株式会社鳴門のいも屋 代表取締役 仲野 智也

当社は、国連が提唱する持続可能な開発目標（SDGs）に賛同し、持続可能な社会の実現に向けた積極的な取り組みを行ってまいります。

| 項目 | テーマ | 取組み内容 | ①取組みと②数値目標 | SDGsのゴール |
|-------|-----------------|---|---|---|
| 環境・経済 | 環境配慮型サービス・製品の提供 | 持続可能な社会の実現のため、環境配慮型製品・サービスの提供を推進します。 | ① 形状規格外等の理由により廃棄されるさつまいもを原材料として利用 | 9 産業と技術革新の基盤をつくろう 13 気候変動に具体的な対策を |
| | | | ② 2025年までに4種類以上の商品を開発 年間24t以上形状規格外芋利用 | 12 つくる責任 つかう責任 |
| 環境・経済 | 省エネ・温室効果ガスの排出削減 | CO2排出抑制のため、エネルギー使用量の把握に努め、さらなる省エネ・節電を推進します。 | ① 再生可能エネルギーの導入・利用推進 | 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 13 気候変動に具体的な対策を |
| | | | ② 2025年までに、より高効率の冷凍機導入 全消費電力の3%削減 | 12 つくる責任 つかう責任 |
| 社会 | 不正競争行為の禁止 | 従業員全員が、不正競争行為について理解をし、該当する行為が行われないように防止活動に努めます。 | ① 基本・方針に製品データの改ざん、技術の盗用等禁止する旨定める | 8 働きがいも経済成長も |
| | | | ② 2024年までに規程・方針を見直し、全社員へ通知 ポスターや社内報による普及啓発活動 | 16 平和と公正をすべての人に |
| 環境・経済 | 地産地消の推進 | 地域産の材料・食品・製品などの地域資源を積極的に活用し、地産地消・地産外商を推進します。 | ① 地域産の原材料を使用した製品の開発・導入 | 11 住み続けられるまちづくりを |
| | | | ② 2025年までに地域産の人参・しいたけ・すだち等を使用した製品を開発 地域ブランド製品として推進 | 17 パートナシップで目標を達成しよう |

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGsとは

持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）とは、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない（leave no one behind）」ことを誓っています。